

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772402257		
法人名	有限会社陽春		
事業所名	グループホーム陽春		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大阪府枚方市東田宮1丁目16番3号		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年4月9日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成28年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数なので、一人ひとりの健康状態等の変化にも早く気づき 利用者と職員のコミュニケーションもうまくとれています。 職員も入れ替わりが殆どなく、利用者ともなじみの関係が確立しています。 月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を受け、利用者の健康状態を把握しています。食事は三食とも手作りで、料理の温度も大切に、家族同様の家庭料理を提供しています。庭先に次々に咲く花等を楽しみながら リビングでは笑い声がたえないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

門を入った中庭には季節の花が植栽され、共用スペースにも季節感や生活感を採り入れ、整理整頓された清潔感のある環境づくりが行われている。年間計画に基づいた研修と毎日のミーティングで職員の資質向上と連携を図り、職員の定着がよい。「ケア会議」と「サービス担当者会議」を定期的実施し、利用者一人ひとりの現状に即した介護計画を作成し、個別性を尊重した介護に取り組んでいる。「介護記録」に日々の生活の様子が詳細に記録されており、家族の来訪時には提示して伝えている。利用者の好み・季節感・風習等を採り入れて、献立作り・買い物・毎食手作りの食事を継続し、誕生日には好みの献立と赤飯でお祝いし、時にはにぎり寿司の出前をとるなど変化も工夫している。24時間連絡体制の訪問診療と訪問看護との連携により、早期対応に努め家族の安心となっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示することにより、職員への周知はもちろん、外部の人へも公開している。入職時には理念について説明している	「家庭的な環境のもとでその人らしく生活していただきます」「地域の人たちとふれあいながら、スタッフと一緒に楽しく過ごします」という、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所独自の理念を作っている。理念は玄関に掲示し、職員や来訪者にも周知と共有を図っている。ミーティングや介護計画作成時には理念に立ち戻って話し合い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧で地域の行事や活動の案内がある、年末には歳末パトロールにも参加し、地域の人達とも交流している。地域のコミュニティーで「子供１１０番」の旗を掲げて参加している	自治会に加入し、回覧板による情報交換を行っている。気候のよい時期には、公園に散歩に行き地域の方と交流の機会がある。小学校の区民体育会や公園での花見会には、利用者と一緒に参加している。公民館の行事や歳末パトロールには地域の一員として職員が参加している。「子供１１０番」にも登録している。傾聴ボランティアや介護相談員の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	空床の問い合わせや相談には快く応じているが、地域の人々にもっと積極的に話し合っていきたい		

4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している 地域包括支援センター職員・自治会副会長・民生委員・家族代表の方が出席し、地域の催しの案内や利用者の近況等話し合ってサービスの向上につなげている 出席者の意見等はノートに記録している	地域包括支援センター職員・自治会副会長（民生委員）・家族代表が出席し、2ヶ月に1回開催している。利用者も同席している。利用者の状況や事業所の取り組みを伝え、出席者から情報や意見・助言などを受けている。地域包括支援センター職員からは地域の動向等、自治会副会長からは地域行事等について情報を得て、サービスや運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市主催の会合等は必ず出席し、市の担当者にも色々相談し助言を頂いている 1月に市の実地指導があり、細かいところ迄指導を頂く 介護相談員（1名）も1月より新規の方を受け入れている	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加を通して、事業所の状況や取り組みを伝え、情報や助言を受け連携をとっている。介護相談員の受け入れや「徘徊SOS」を通して市との連携がある。質問等があれば、窓口訪問や電話で問い合わせ指導や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害を全職員が理解しており玄関の施錠は、やむを得ない場合のみ行っている 利用者の安全確保の為1度だけ身体拘束を行ったが、その時は家族の同意も得て記録も残している	年間研修計画に盛り込んで、「身体拘束の理解」の研修を実施している。身体拘束は行わない方針で、身体拘束を行わない支援方法についてはミーティングで検討し共有している。今年度の車いすの固定による立ち上がり防止の対応については、やむを得ない場合として、家族の同意・検討の記録等を経て、最短の期限を決めて行われた。基本的には玄関の施錠は行っていない。	

7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内では虐待が見過ごされない様注意している 高齢者虐待防止関連法について勉強して、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度と日常生活自立支援事業についての研修に出席し内容を他の職員にも説明している 必要な人にはそれらを活用していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を丁寧に説明して、了承を得た上で契約している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には積極的に声かけ、話し合いを行い、意見や要望を聞き取るようにしている 外部評価時の家族のアンケートも参考にして、職員間で話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる 「ご意見箱」を玄関に設置している	家族来訪時には近況を報告するとともに、「介護記録」を読んでもらい日常の様子を詳細に伝えることにより、意見・要望が表しやすいようにしている。利用料の持参をお願いし、家族の来訪が定期的であり、意見・要望が把握できるようにしている。「ご意見箱」を、人目を気にせず投函できる玄関に設置している。把握した意見・要望は、ミーティングと「連絡帳」で把握し、迅速な対応に努めている。	

11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	昼食後の休憩時間を利用してミーティングを行い、お互いに意見や要望を出し合っている	毎日昼食後にミーティングを行い、管理者も参加し、職員の意見・提案を把握している。利用者のケースカンファレンス・日常の業務に関すること等、そこで話し合われた内容は「連絡帳」に記録し、職員間で共有しサービスや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日のように現場に来ており勤務状況を把握しながら向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の力量を把握して外部研修へ参加する機会を持てる様にしている、事業所内では介護技術の相互研修も行い、ケアの向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と意見交換しながらサービスの質の向上を目指している 相互訪問も行っている		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階で本人の心身の状態や困っている事をよく聴き安心を確保するための関係づくりに努めている 体験入所も行っている		

16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談でこれまでの生活歴や病歴等詳しく聞き家族の願いや思いをくみとり、信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談でどのような支援が必要か話し合い、柔軟に対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員は利用者の不安や喜び等暮らしの中で分かち合い支えあっている		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の様子や出来事をきめ細かく家族に伝え、本人と家族との絆を大切にして協力しながら本人を支援している		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これ迄本人を支えてくれた馴染みの人や、孫、ひ孫も遊びに来て、他の利用者も一緒に楽しんでいる。これからも交流が継続できるよう支援していく	馴染みの人や場所についての情報が把握できれば「アセスメントシート」の「特記事項」に記録している。身内の方や宗教関係の友人の来訪があった場合は、関係継続を支援している。馴染みの場所については家族との外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は、すべての職員が把握し、調整役となって孤立しないよう気を配っている		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて電話等で相談や支援に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少人数の利点を活かし一人ひとりの思いや希望は充分把握でき「買い物に行きたい」等に対応している 意思表示のできない利用者には心の声を聴けるよう努力している	入居時に把握した思いや意向は「アセスメントシート」の「主訴・要望」欄に記録し、日々の会話の中で把握した内容は、「介護記録」に利用者の言葉通りに記録し、共有している。把握が困難な利用者については、表情や反応の観察から把握に努めている。耳が不自由な利用者には筆談を用いる等、個別のコミュニケーション方法に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入所時に、本人や家族、特にキーパーソンの方等から詳しく聴き、馴染みのある今までの暮らしが出来るよう心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、心身状態の把握に努め 「今できること」 「したいこと」を考慮している		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム開設当初から職員が殆ど変わらず、長年に渡り本人と接し、その人その人の現状を把握し意見を出し合い介護計画に反映している 6ヶ月に一度見直しモニタリングを行っている	入居時の情報を「基本情報」に記録し暫定計画を作成し、1カ月程度で「アセスメント要約表」で課題抽出し、介護計画を作成している。各利用者について2ヶ月に1回「ケア会議」を実施し、利用者の状況を検討し、必要があれば現状に即した介護計画の見直しを行っている。定期的には、6カ月に1回モニタリングと再アセスメントを行い、「サービス担当者会議」を実施し介護計画を見直している。見直す際には、主治医・訪問看護師等関係者の意見を採り入れている。「介護記録」に日々の生活の様子が詳細に記録されており、モニタリングの根拠として活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には日々の様子と共に、その人らしい言葉使いでの表現も記入している職員間で情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の日課を決めず、その日その日の要望に応じて柔軟な対応を心がけている書類等の申請・代行も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員も運営推進会議に出席して、協力しながら支援している		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	月に2回の訪問診療 も24時間体制で、安 心して適切な医療を 受けられるように支 援している 利用者 の急変時にはクリ ニックの看護師に連 絡して医師の指示を 受けている	入居時に受診につい ての希望を確認して いる。月に2回の訪 問診療と週に1回の 訪問看護を受けられ る体制がある。歯 科・整形・外科につ いては必要時に通院 で受診し、職員が同 行している。受診結 果は「介護記録」に 記録し、ミーティン グでも職員間で共有 し、家族にも報告し ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者 が適切な受診や看護を受けられるよう支援 している	訪問看護ステーショ ンより毎週1回来て もらい日常の健康管 理について相談して いる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。又は、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して 過ごせるよう、病院 関係者と情報交換し たり、早期退院に向 けソーシャルワー カーと相談している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合に おける対応および看 取りに関する指針」 を作成して、利用 者・家族に説明して 同意を得ている、家 族・主治医と充分話 し合い、全員で方針 を共有して対応して いく	重要事項説明書の中 の「重度化した場合 における対応および 看取りに関する指 針」を契約時に説明 し、利用者・家族の 同意を得ている。 「延命措置に関する 意思確認書」も説明 している。事例はな いが、重度化の段階 を迎えた場合には、 家族・主治医と話し 合いを重ね、全員で 方針を共有して対応 していく体制があ る。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、日赤の普及員を講師に招いて応急手当や初期対応の訓練を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全計画を作成し、年2回避難消火訓練を行っている 各人の移動能力を確認して、いざという時の誘導方法を話し合っている 自治会副会長より地域に事業所があることを説明してもらい災害時には協力してもらえる様お願いしている 災害時を想定して非常食を備蓄している	平成26年度・27年度は年1回、昼間想定、利用者参加で火災訓練を実施した。設備点検は年に1回行っている。年間研修計画に盛り込んで、「防火対策及び非常災害時の理解」で災害時対応の研修を行っている。近隣の職員からの夜間緊急連絡網を作っている。自治会副会長を通して地域への協力を依頼している。備蓄も行っている。	28年度は、年2回、夜間想定での避難誘導・消火・通報の総合訓練を計画している。計画通り実施されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、言葉かけには全職員気を配っている 誇りを傷つけないように接して、自尊心の尊重に努めている	理念に「その人らしく」を掲げ、年間研修計画に盛り込んで「プライバシー保護の理解」の研修を実施し、職員の理解を深めている。利用者への言葉かけや対応、また、職員間の伝達も周囲に十分配慮し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない会話の中から思いや希望を表せるよう働きかけている		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の状態を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしている 徘徊の見守り、お喋りの相手等、希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪も資格のある職員が各人の好みに応じてカットしている 顔そりや化粧品の購入等、おしゃれが出来るよう支援している（現在は一人だけ）		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの誕生日には赤飯で祝ったり季節感をとり入れた献立を心がけている 利用者の好みも考慮し、職員も一緒に食べながら見守りしている 年に3～4回皆さんの好物のにぎり寿司で喜んでもらっている 現在は食事の準備や片付けを一緒にする事は困難である	利用者の好み・季節感・風習等を採り入れて、献立作り・買い物・毎食手作りの食事を継続している。誕生日には好みの献立と赤飯でお祝いし、時にはにぎり寿司の出前をとるなど変化も工夫している。職員も同じ食卓で同じ食事を味わい、会話を楽しみながら家庭的な雰囲気ですぐに食事できるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、把握している カロリーの過不足にも気を配っている		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや洗面所への誘導等それぞれの力量に応じた口腔ケアを行っている 義歯の洗浄、消毒も行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの力に応じてポータブルトイレを利用したり、尿失禁が多くなった利用者には、紙パンツを利用しながら出来るだけトイレで排泄が出来るよう声かけし誘導している	チェック表で排泄状況やパターンを把握し、利用者の状況に応じてトイレ・ポータブルトイレでの排泄を支援している。日々のミーティングや2ヶ月に1回のケアカンファレンスで、排泄用品や支援方法等を検討し、現状に即した支援ができるようにしている。ポータブル使用時は部屋のドアをきっちりと閉める、誘導時や職員間の伝達時は声のトーンに配慮する等羞恥心やプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の及ぼす影響を良く理解しているので出来るだけ運動することや水分を多く摂るよう全員で取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一応の入浴日は決めているが一人ひとりの体調や希望に応じて柔軟に対応している 羞恥心へも配慮しつつ、安全の為に見守りして入浴を楽しむ支援をしている	入浴は基本的には週に3回としているが、体調や状況に応じて臨機応変に対応している。同性介助で対応し、利用者の状況に応じて2人介助で安全に入浴できるように支援している。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は活動してもらって夜間は安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルして職員が内容を把握している服薬時は見守り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野でお願い出来るような事を頼んだり 散歩や歌等一緒に楽しんでいる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりに合わせて近くでの散歩や、近所のコンビニ等へ買物に行っている 外出が難しい人は敷地内で外気に触れ気分転換が出来るよう支援している 墓参り等は家族と出かけられるよう協力をお願いしてる	重度化に伴い外出が困難な状況であるが、気候の良い時期には事業所の周辺・公園・コンビニ等に出かけられるように取り組んでいる。歩行が困難な利用者も、車いすを利用して機会均等に外出できるように努めている。中庭にプランターやテーブルを設置し、花を見ながらお茶や歌を楽しみ、外気浴と気分転換の機会を設けている。花見会・菊花展等、季節の花を楽しむ外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金は、それぞれ財布に持っていて、買い物に行っても、自分で支払うよう見守っている（現在は買物できる人はひとりだけ）		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族への電話は職員が段取りして本人に出てもらっている (現在電話が出来るのは1人だけ)		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングがあり普通の家庭のように台所で洗い物している様子や話し声が聞こえる空間づくりになっている 壁面には毎月季節のものを飾るよう工夫している	共用空間は、整理整頓され清潔感がある。リビングにはテーブル席とソファセット、玄関横のスペースにはテーブルと椅子、中庭にもテーブルセットが設置され、利用者が思い思いの場所で過ごせるように配慮されている。季節の花や季節感のある貼り絵を飾り、隣接した台所からの音や匂いで生活感も感じられる。加湿器を設置し湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横のスペースに小さなテーブルと椅子を置いたり、リビングの壁側にソファをおいて思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたタンスやコタツ等持ち込んだり、家族の写真や置物を飾る等工夫している	1階に3部屋、2階に2部屋の5室がある。テレビ・こたつ・たんす等の使い慣れた家具や、家族の写真・装飾品等の気に入ったの物を持ち込み、居心地よく過ごせるように支援している。利用者の状況に応じては安全に配慮し、家族とも相談して、家具類を減らす場合もある。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口等に手すりを設けることで、安全で自立した生活が送れるよう工夫している 居室のドアには名札や目印になる絵等を貼り分かり易くしている		
----	---	---	--	--

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて いる	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
		○	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない